(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3717001号
(P3717001)
(45)発行日　平成17年11月16日(2005.11.16)　(24)登録日　平成17年9月9日(2005.9.9)

(51)Int.Cl.[7]　F I
B65D 27/00　B65D 27/00　T
B42D 15/02　B42D 15/02　501E

請求項の数 1　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平7-97656
(22)出願日　平成7年3月31日(1995.3.31)
(65)公開番号　特開平8-276943
(43)公開日　平成8年10月22日(1996.10.22)
審査請求日　平成13年10月11日(2001.10.11)

(73)特許権者　000110217
トッパン・フォームズ株式会社
東京都港区東新橋一丁目７番３号
(74)代理人　100062225
弁理士　秋元　輝雄
(72)発明者　小沢　利夫
東京都八王子市椚原町１０６１－６

審査官　渡邊　真

(56)参考文献　実開平０５－０４６４７３（ＪＰ，Ｕ）
実開平０４－０２１４４２（ＪＰ，Ｕ）
特開平０３－２１２３５２（ＪＰ，Ａ）
特開平０７－０１７１７１（ＪＰ，Ａ）

最終頁に続く

(54)【発明の名称】重ね合わせ綴じ合わせ封書

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
シートの上辺部分、下辺部分、巻き折り終辺となる側辺部分と、前記側辺部分と対向する折り部側の側辺部分とを綴じ合わせることにより作成される巻き折り状に重ね合わせ綴じ合わせる封書において、
前記巻き折り状の重ね合わせで対向する綴じ合わせ部の少なくとも一方の綴じ合わせ部の対向面に、該綴じ合わせ部の長さ方向に沿って剥離剤が塗布されて略帯状に形成され、且つ前記剥離剤の抜きパターンである剥離剤未塗布部を不連続にして有する剥離剤塗布部を設けるとともに、
前記剥離剤未塗布部を覆うようにして前記剥離剤塗布部に接着剤が塗布されて、前記重ね合わせで前記接着剤を介して対向した前記綴じ合わせ部が分離可能に綴じ合わされていることを特徴とする重ね合わせ綴じ合わせ封書。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は重ね合わせ綴じ合わせ封書に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
従来、シートを分離可能に綴じ合わせる形式には、配送伝票において採用されているように複数枚のシートａを重ね合わせ、各シートａの同一端辺を接着剤ｂにより綴じ合わせ

るとともに、そのシートａの綴じ合わせ部ｃそれぞれに沿って切り取り用ミシン目ｄを穿設するようにしたものがあり、必要時に前記切り取り用ミシン目ｄからシートａを分離することができるものである（図６参照）。また、一枚のシートを折り合わせてなる封書においても、シートを分離可能に綴じ合わせる構造を有しているものがあり、図７に示すように、シートａを三折りすることによって対向して重ね合わされた連続三周辺を接着剤ｂによって綴じ合わせるとともに、その三周に連続した綴じ合わせ部ｃに沿って切り取り用ミシン目ｄを穿設しており、前記切り取り用ミシン目ｄから綴じ合わせ部ｃを取り除いて封書を見開きできるようにしている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、図６に示されている重ね合わされた複数枚のシートを同一端辺で綴じ合わせてそれに切り取り用ミシン目を沿わせるように穿設するものでは、切り取り用ミシン目から分離された綴じ合わせ部が散乱し易く、そして綴じ合わせ部はシートの連結という役割しかできないため、綴じ合わせ部をも含めたシート全体の有効な利用が行えず、不経済なものとなっていた。また、封書の場合（図７）には前述した問題のほかに、封書内に別の紙片などを封入している場合につぎの問題があった。すなわち、三周辺の切り取り用ミシン目を切断する際に内部の紙片が切り取り用ミシン目側に移動し、誤ってこの紙片を切断してしまうという恐れがあった。

このため、切り取り用ミシン目を穿設せずに綴じ合わせ部分も有効に利用でき、紙片などを封入した封書にあっては開封の際に封入した紙片が誤って切断されないようにすることが臨まれている。

【０００４】

一方、切り取り用ミシン目を穿設せずに接着剤の接着力を調整したり、或は接着剤の塗布面積や塗布パターンを調整（点状、細線状などにする）する方法がある。しかし、綴じ合わせシートや封書の作製段階で、綴じ合わせに用いる接着剤の接着力、綴じ合わせシートや封書の使用用途、シートの紙質、サイズなどにより、その都度、接着剤塗布ユニットを変更しなければならず、不都合であり、接着剤の塗布量、塗布面積のバラ付きにより安定した剥離を実施させることが困難になっている。このように、切り取り用ミシン目を用いずに接着剤の接着力のみの調整では、綴じ合わせシートを分離し易くしたり封書を開封し易くしたりすることが簡単には行えないのが現状であった。

【０００５】

そこで本発明は上記の事情に鑑みて、切り取り用ミシン目を穿設せず、又、接着剤自体の接着力を調整することなく、通常使用される接着剤にて綴じ合わされた綴じ合わせ部分が必要に応じて確実に分離できるようにすることを課題とし、綴じ合わせ部分も含めてシート全面が有効に利用でき、封書の開封に際しては内部に入れた紙片などが切断されないようにすることを目的とするものである。

【０００６】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記課題を考慮してなされたもので、シートの上辺部分、下辺部分、巻き折り終辺となる側辺部分と、前記側辺部分と対向する折り部側の側辺部分とを綴じ合わせることにより作成される巻き折り状に重ね合わせ綴じ合わせる封書において、前記巻き折り状の重ね合わせで対向する綴じ合わせ部の少なくとも一方の綴じ合わせ部の対向面に、該綴じ合わせ部の長さ方向に沿って剥離剤が塗布されて略帯状に形成され、且つ前記剥離剤の抜きパターンである剥離剤未塗布部を不連続にして有する剥離剤塗布部を設けるとともに、前記剥離剤未塗布部を覆うようにして前記剥離剤塗布部に接着剤が塗布されて、前記重ね合わせで前記接着剤を介して対向した前記綴じ合わせ部が分離可能に綴じ合わされていることを特徴とする重ね合わせ綴じ合わせ封書を提供して、上記課題を解消するものである。

【０００７】

【作用】

本発明において、綴じ合わせ部を重ね合わせた際に剥離剤未塗布部の部分に位置する接着剤を介してシート相互が直接が綴じ合わされるようになる。そして、前記剥離剤未塗布部が不連続であるため、その剥離剤未塗布部に位置する接着剤によるシート接着部分が不連続状態になる。

また、剥離剤未塗布部以外では、塗布された接着剤と剥離剤層（剥離剤塗布部分）とを介してシートの綴じ合わせ部が相対することになり、剥離剤層の存在によって接着力が弱められた状態で綴じ合わされるようになる。

【０００８】

【実施例】

つぎに本発明を図１から図６に示す実施例に基づいて詳細に説明する。

図１から図３は第一の実施例を示していて、図中１は重ね合わせ綴じ合わせシートであり、このシート１を巻き折り状に重ね合わせ、後述する所定部にて綴じ合わせることにより封書として構成されているものである。図２、図３の巻き折り前の展開状態で示すようにこのシート１は表裏両面が全面的に予め印刷され、宛名情報記載部２や伝達情報記入部３などを所要個所に備えている。

【０００９】

また、シート１は巻き折り状に重ね合わせた時に対向する部分の内、上辺部分、下辺部分、巻き折り終辺となる側辺部分とこれが対向する折り部側の側辺部分とを綴じ合わせ部４として有している。これらの綴じ合わせ部４それぞれの対向面では印刷面上に剥離剤が綴じ合わせ部４の長さ方向に沿って略帯状に塗布されており、これら対向面での剥離剤塗布部分５それぞれには、この剥離剤を抜きパターンで塗布することによって、シート表面の印刷面を表出させ綴じ合わせ部の長さ方向に沿う剥離剤未塗布部６が設けられており、巻き折りによる綴じ合わせ部４の重ね合わせの際に、剥離剤未塗布部６の少なくとも一部が重なり合うように配置されている。そして、図示されているように、上記剥離剤未塗布部６それぞれは所定長さの線分を定間隔で配置してなる不連続状態、即ち、破線状のものであり、重ね合わせ時には個々の線分が少なくとも一部で重なり合うように設けられている。

【００１０】

シート１の巻き折り後の綴じ合わせに際しては、上記綴じ合わせ部４の各対向面における剥離剤塗布部分５に接着剤７が塗布され、この接着剤７が上記剥離剤未塗布部６を覆っている。そして前記接着剤７が塗布された状態で重ね合わせると、図４に示すように、剥離剤未塗布部６ａ，６ｂの重なり部分８では、接着剤がシートに直に接していることになり、この接着剤７を介してシート１が直接的に綴じ合わされた状態となる。また、重なり部分８以外の部分では、塗布された接着剤と印刷インキ層とを介して綴じ合わせ部４が綴じ合わされることになる。

このように不連続状態で定間隔で並ぶ重なり部分８で接着剤によりシート１が綴じ合わされているため、綴じ合わせ部４を引き剥くようにすることで、容易にこの綴じ合わせ部４から重ね合わされているシート１を分離させることができ、即ち、封書を見開き状態にすることができ、さらに、不用意な取り扱いでは重なり部分８での接着剤７の働きにより綴じ合わせ部４が分離しないようになっている。加えて、前記重なり部分８以外に塗布された接着剤７は剥離剤層（剥離剤塗布部分５）に接しているため、接着剤７の接着力は極めて小さいものとなり、綴じ合わせ部４の引き剥ぎに抵抗となるものではない。

【００１１】

綴じ合わせ部４の引き剥ぎ操作性をより向上させるための方法としては、図示されている如く、相対する綴じ合わせ部４の内、一方の綴じ合わせ部４の端部をコーナーカット９することが挙げられる。また、重なり部分８それぞれの面積や形状、間隔を調整することも一つの方法である。

さらに、上記の実施例では、相対する剥離剤未塗布部６それぞれを破線状としたが、少なくとも一方の剥離剤未塗布部６を不連続状態として不連続の重なり部分が得られるようにすればよい。また、剥離剤未塗布部６の不連続パターンは上記実施例の破線状に限定さ

れない。例えば、図５（イ）に示すように、斜め線分が並ぶようにして剥離剤未塗布部６を設けたり、図５（ロ）に示すように、点線として剥離剤未塗布部６を設けるようにしてもよい。

【００１２】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明の重ね合わせ綴じ合わせ封書は、シートの上辺部分、下辺部分、巻き折り終辺となる側辺部分と、前記側辺部分と対向する折り部側の側辺部分とを綴じ合わせることにより作成される巻き折り状に重ね合わせ綴じ合わせる封書であって、前記巻き折り状の重ね合わせで対向する綴じ合わせ部の少なくとも一方の綴じ合わせ部の対向面に、該綴じ合わせ部の長さ方向に沿って剥離剤が塗布されて略帯状に形成され、且つ前記剥離剤の抜きパターンである剥離剤未塗布部を不連続にして有する剥離剤塗布部を設けるとともに、前記剥離剤未塗布部を覆うようにして前記剥離剤塗布部に接着剤が塗布されて、前記重ね合わせで前記接着剤を介して対向した前記綴じ合わせ部が分離可能に綴じ合わされていることを特徴とするものである。

これによって剥離剤未塗布部に位置する接着剤による接着部分が不連続状態になるため、綴じ合わせ部が強固な綴じ合わせ状態にはならない。このため、綴じ合わせ部の引き剥ぎ操作で、容易にその綴じ合わせ部自体が別れてシートが分離できるようになり、綴じ合わせ部における対向面の印刷部分も大きく損なわれず、綴じ合わせ部分にも印刷を施すことによって、シート全体を有効に利用することが可能となる。そして、従来のように切り取り用ミシン目を穿設しないため、綴じ合わせ部の散乱、封書形態時における封入物の切断などを解決できるなど、実用性に優れた効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図１】　本発明に係る重ね合わせ綴じ合わせシートを封書形態として示す説明図である。

【図２】　封書形態とされた重ね合わせ綴じ合わせシートの内面展開状態を示す説明図である。

【図３】　同じく外面展開状態を示す説明図である。

【図４】　剥離剤未塗布部の重ね合わせを示す説明図である。

【図５】　剥離剤未塗布部の不連続状態を示すもので、（イ）は斜め線分を並べ設けた形態とした剥離剤未塗布部を示す説明図、（ロ）は点線状とした剥離剤未塗布部を示す説明図である。

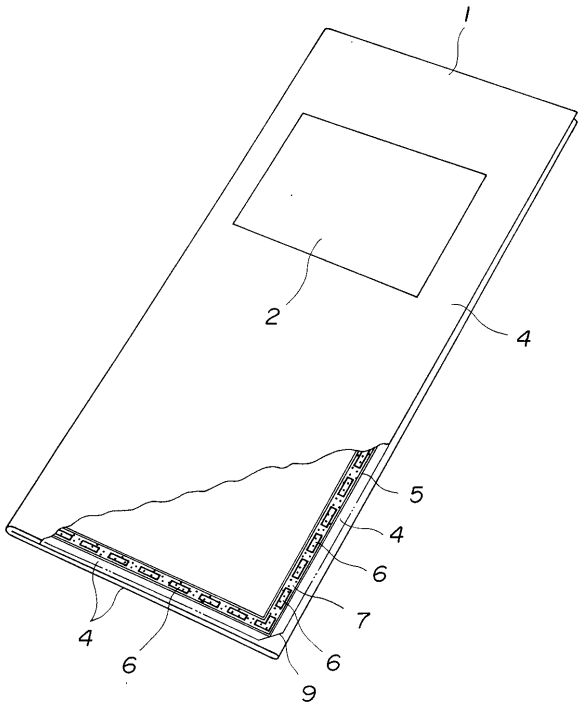
【図６】　従来例を示す説明図である。

【図７】　同じく従来例を示す説明図である。

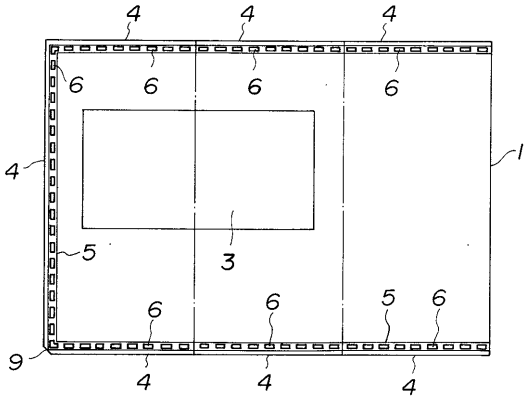
【符号の説明】

１…重ね合わせ綴じ合わせシート
４…綴じ合わせ部
５…剥離剤塗布部分
６…剥離剤未塗布部
７…接着剤
８…剥離剤未塗布部の重なり部分

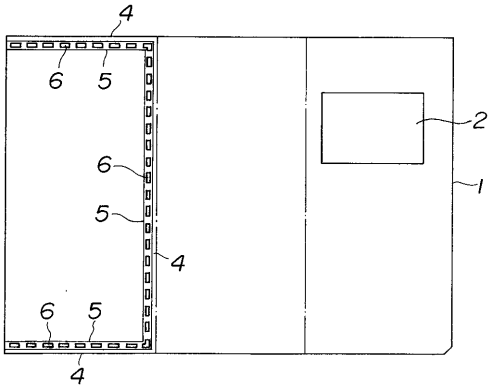
【図１】



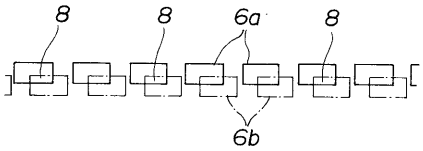
【図２】



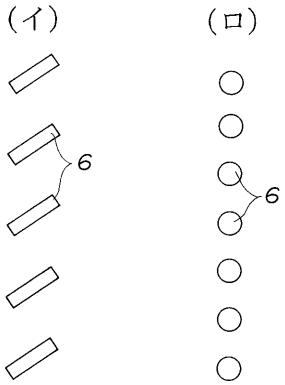
【図３】



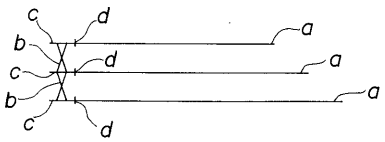
【図４】



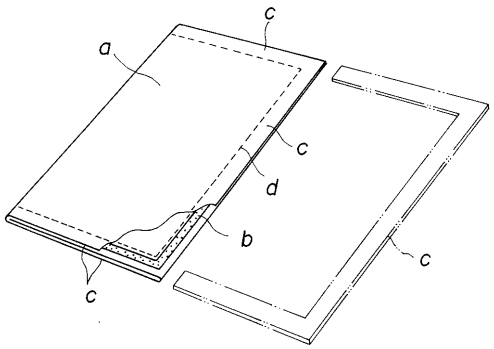
【図５】



【図６】



【図７】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.[7], ＤＢ名)
B65D 27/00
B42D 15/00